



日本海のみなと大発見「こども港調査隊」が敦賀港の役割を学びました！

平成30年7月21日(土)、新日本海フェリー敦賀ターミナルで、子供たちが地元の港の役割や歴史を学ぶイベントが開催されました。

「こども港調査隊」と銘打ったこのイベントは、日本財団が企画する「海と日本プロジェクト」の一環で同プロジェクトの福井県実行委員会が開催したもので、福井県内の4市町から小学5年生22人が参加しました。

丸一日かけて行われたイベントでは、午前中に、当事務所の職員が敦賀港の役割や港で働く人々について紹介した後、港湾業務艇「まつかぜ」でコンテナターミナルやガントリークレーンなど敦賀港の港湾施設を見学したほか、人道の港敦賀ムゼウムで敦賀港の歴史も学びました。午後は、赤れんが倉庫の見学をした後、新日本海フェリーの遠藤支店長からフェリーの役割を学びました。イベントの最後には、一日を通して学んだ事を調査票にまとめて提出。今後主催者でレポート審査を行い、代表に選ばれた子供は9月に新潟市で開かれる「こども港フォーラム」に参加して発表するとのことです。

イベントが始まる前、「海は近いけど、港のことはよく知らない。この機会に港をもっと知りたい。」と話していた子供たちがどんなレポートを提出したのか？また代表に選ばれた子がどんな発表をするのか？その結果は9月のフォーラムまでわかりませんが、楽しみにその時を待ちたいと思います。



敦賀港の役割を学ぶ子供たち



まつかぜに乗って敦賀港の施設を見学します。



フェリーの係船ロープで綱引きする一幕も。



みんなで記念撮影！



まつかぜ船内の様子。



当日の様子は、福井TVで後日放送されます！